

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

「言葉」という言葉を知っていますか？

言葉の魂たましいのことです。古代の人びとは、言葉には魂が宿ると考えていました。だから、よい言葉を言えば、その魂の力でよいことが起こると考えていました。また、悪い言葉を言えば、悪いことが起こると考えていました。①心と言葉はどのように連動するのでしょうか？

よい言葉を覚えなさい、とよく言われます。正しい言葉を覚えなさいといけませんと、よく言われます。しかし、私はそういう言い方をされると、大切なことを忘れていないかと思ってしまう。それは、言葉とは心を表すものであるから、まずは心が大切ではないのかということ。ですから、言葉を鍛えるということは、心を磨くみがということと一体のはずです。

私の近所に、頼まれてもないのに、毎朝公園の砂場を掃はいている人がいます。よく見ると、石やガラス、釘くぎなどが紛れ込んでいないか、見ているようです。やって来たお子さんが、怪我けがをしないように、見守って下さっているのです。私は、公園を通りかかる時に、「おはようございます」と声をかけるようになりました。そのうち、

今日は、寒いですねえ。

今日は、暑くなりそうですねえ。

などと、声をかけるようになりました。また、春になれば、

今日は、花冷えですねえ。

と話すようになりました。花冷えとは、桜の花が咲く頃に、急に冷え込む日のことを言います。私は②こういう言葉を自由自在にかけられるわけはありませんが、早く自在にかけられるようになりたいと心がけています。

では、大切なことは、何なのでしょう。大切なことは、③チイキの子どもたちのために、砂場をきれいにしてやろう、安全にしてやろうという気持ちを持つている方に対する④ケイイです。私は、近所の子どもたちを見かけると、

皆が楽しく遊べるのは、この方のお蔭かげですよ。「ありがとう」と言いなさい。

と言うことにしています。誰だれからも頼まれていないのに、ただ家の前に公園があつて、砂場があるというだけで、子どものために、砂場を掃く人。そういう人に対して、感謝の気持ちを込めて「あいさつ」をする。そういう気持ちがあれば、ではどうやったら、気持ちのよい「あいさつ」ができるか。どうやったら、季節の話題で心をなごませることができるようになるか、自然に考えるようになります。

皆さんは、学校で俳句を習いましたか？ 俳句には、必ず入れなければならない言葉があります。これを「⑤季語」と言います。「花冷え」の花といえ、桜のことですから、桜の頃の季節というと、春ということになります。いや、秋に咲く花だつてあるぞ、と言う人もいるかもしれませんが、季語というものは、約束事なので、「花冷え」といえば春の季語ということになります。

私は、国語の先生ですから、国語のテスト問題を作らなければなりません。その折によく出題するのが、この「花冷え」と「七夕」です。「七夕」は夏の行事と思いますがちなのですが、旧曆きゅうれきの七月は秋にあたりますから、「七夕」は秋の季語となります。いわば、ひっかけ問題というやつです。一見わかりやすそうに見えて、実は違ちがうという問題です。

テストで、よい点をとることは大切です。だから「花冷え」と出てきたらすぐに春の季語だとわからねばなりません。でも、そこで終わってしまう人は、本当の意味で、その言葉を知っている人ではありません。桜の花が咲き始めたのに、今日はなぜか、寒いなあ。砂場の前を通りかかる時に、そこで掃除そうじをして下さっている人に、「花冷えですなあ」と「あいさつ」してみよう。そうすれば、さわやかな朝の「あいさつ」になる。そう思つて、「花冷え」という言葉を使える人が、⑥ 本当の意味で言葉を知っている人なのです。テストで答えられても、それは、それだけのことです。心のない言葉は、ただ空むなしいだけです。

『万葉集』をはじめとする古典を学んでいると、言葉というものが、どういう仕組みになつていくか、気になります。日本語には「⑦接頭語」というものがあつます。語の上に冠かんして、意味を添そえる言葉のことです。「なか(中)」でも、本当の「なか」なら、「まんなか」。さらにそれを強調すると「どまんなか」となります。本当の「こころ」を「まごころ」と言います。「ま」も接頭語です。

建築家の佐川旭あきらさんから、こんな話を聞いたことがあります。

建築というものは、外から見える部分よりも、見えないところの方が多いですよ。だって、そうでしょ。床の下は見えないし、天井裏うらだって見えない。それに、ビルの場合は、地下に杭くいを打ってるんですよ。そういうところは見えませんよ。でも、見えないところで手を抜くと、家が傾かたむいたり、雨漏りあまもをして大変なことになります。目に見えるところは、誰でもよい仕事をするんですよ。見えないところが、大切です。それに、建築の失敗というものは、すべて見えないところで起こるんですよ。

私は、なるほどと思いました。人が見えないところを大切にするのが「まごころ」だと思ったからです。

私の⑧ギンムする大学のおトイレには、ただ一輪なのですが、ガラスの瓶びんに季節の花や草が活いけられています。それは、掃除を担当してくれている方が、自分の判断でそうしてくれているのです。そこで、私は、どうして花を活いけてくれるんですか、と聞いたことがあります。すると、その方は、⑨フシギそうに私の方を見て、こう言いました。

ないよりも、あった方がよいと思います。

あまりにも、⑩そつけない返事だったので、驚おどろきました。すると、恥はずかしそうにこう言われました。

花を活いけることも、掃除の一つだと思っんです。だって、そうすれば安らぎがありますから……。

つまり、掃除といっても、その場の汚れよごを取るだけではない。花を活いけることは、その場をきれいにする事なのだということをおっしゃっているのでしょうね。自分の仕事は、この場をきれいにすることだ。だから、きれいにすればよいと考えるか、どうしたら、ここに来る人に安らぎあたを与えることができるのかと考えるか。考え方がまったく違うのです。

この話を聞いて、⑪私は、自分の愚おろかさを恥はじました。私はさきほど建築の先生の話を書いたのですが、見えないところに、まごころを込めることこそが大切だということを学びました。そして、今、人の省かえりみないものに心を込めることで、人は安らぎを得るということを学びました。

人は、よく勉強べんきやうしなさいと言いますが、勉強べんきやうというものは、教室や勉強部屋ばかりでするものではありません。新聞を読んで、わからない言葉があつたら、メモしてみる。そして、辞書を引く。さらには友達や大人と話してみる。そのすべてが勉強です。も

ちろん、テストに出るところをしつかり覚えて、点数を取ることだって大切でしょう。そうして、百点を取ることができるかもしれません。しかし、それは、百点を取ったということだけです。

私たちは、自分で得た知識を、世の中に活かして、生きてゆかなくてはならないのです。百点を取ったからといって、それはその時だけのことです。突然、テロにみまわられて、愛する人が死んでしまったら、どんな気持ちだろう。その国の⑫ダイトウリヨウは、どんな演説をして、国民を励ますのか。そして、今の自分に何ができるのか。そういうことを考えられるようになることが、<sup>⑬</sup>本当の学力なのです。

おトイレに、花を活けたとしても、ほとんどの人は、見向きもしません。また、花を活けた人のことなんて思いません。しかし、そういう人の努力があつて、この場所が美しくなり、心の安らぎが得られるのです。人の見えないところで、人がどれだけまごころを尽くしているかで、その社会や、その国の良し悪しというものは、決まるのだと思います。

（『入門 万葉集』上野誠）

問一 —— 部①「心と言葉はどのように連動するのでしょうか？」とありますが、筆者はどのように考えていますか。最も適当な

ものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 心を磨くことで、言葉は鍛えられる。
- イ 心を磨かなくても、言葉は鍛えられる。
- ウ 心を磨いても、言葉は鍛えられない。
- エ 言葉を磨くことで、心は鍛えられる。
- オ 言葉を磨かなくても、心は鍛えられる。

問二 — 部② 「こういう言葉」とありますが、どういう言葉ですか。本文の内容をふまえて三十字以内で書きなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問三 — 部③・④・⑧・⑨・⑫のカタカナを漢字に直しなさい。

問四 — 部⑤ 「季語」とありますが、次のア～エの季語は、それぞれの季節に当たりますか。春・夏・秋・冬で答えなさい。

ア 白菜    イ お月見    ウ 金魚    エ 潮干狩り<sup>が</sup>

問五 — 部⑥ 「本当の意味で言葉を知っている人なのです」とありますが、そのような人を一番よく理解しているのはだれですか。次のA～Eのうちから一人選び答えなさい。

Aさん いろいろな言葉をよく知ってるよねと言われるためにも、今の自分とは直接的にあまり関係のない言葉もどんどん覚えていくことが大切だね。

Bさん 間違った言葉をうっかりと使ってしまったないように、できるだけよく知っている人に教えてもらいながら、言葉の本当の意味を理解していこう。

Cさん とにかくたくさんさんの言葉を知っていればいいというのではなく、実際に相手のことを思いながら使うことが本当に言葉を分かっているということだね。

Dさん 時代によって言葉の意味はころころと変わるものだから、自分自身が本当の意味を守っていくんだというような前向きな気持ちを持つとう。

Eさん 日ごろからできるだけ言葉の意味を忘れないようにするためにも、相手に向かって何度も使ってみるようなねばり強さが求められるんだね。

問六 — 部⑦ 「接頭語」とありますが、次にあげる言葉に共通してつく接頭語を、ひらがな一字で答えなさい。

弱い  
細い

問七 — 部⑩「そっけない」の意味について、最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア それほどおもしろくもない。

イ その場に合っていてふさわしい。

ウ その場限りで何も考えていない。

エ 自分のことしか考えていない。

オ 他人に対する愛想がない。

問八 — 部⑪「私は、自分の愚かさを恥じました」とありますが、なぜそのように感じたのですか。六十字以内で書きなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問九 — 部⑬「本当の学力」について、筆者はどのようなものとして考えていますか。五十字以内で書きなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問十 — 部「言葉には魂が宿ると考えていました」とありますが、あなたはどのように考えますか。その理由も合わせて百二十

字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

おじいちゃんたちがくるという日、瑠美奈はパパと車で駅まで迎えにいった。

どうせ坊主を見せるのなら、早いほうがいいと思ったのだ。

もちろん、大好きなダメージパンツをはいて。

改札口で待っていると、おじいちゃんたちがこっちへ歩いてくる。

瑠美奈は大きく手をふった。

①、二人は瑠美奈に気づかない。

パパが手をあげて、その横にいる瑠美奈を見ても、おじいちゃんは首をかしげるだけだった。

改札をぬけて、目の前まできたおじいちゃんは、瑠美奈を見て ②をのんだ。

おばあちゃんは、目をパチクリとさせた。

「瑠美奈か？」

「瑠美奈なの？」

「いらっしやい、おじいちゃん、おばあちゃん」

瑠美奈はにっこり笑った。

「おまえ、なんだ、その頭は！」

おじいちゃんは、いきなりケンカ腰だった。

「いったいどういうことだ。こともあろうに、女が坊主になるとは。しかも、ひざに穴のあいたズボンときた！」

③おじいちゃんは、すっかり興奮している。

「あら、かわいいじゃないの。小坊主さんみたい」

おばあちゃんがいうと、

「なんだと！ ばかなことをいうな！」

④ 苦虫をかみつぶしたような顔で、おじいちゃんはおばあちゃんを一喝した。

⑤ おまえはいつたい、子どもにどんな教育をしてるんだ！」

車に乗ると、矛先はパパにむかった。

「えっと、ぼくたち夫婦は、子どもがのびのびと育ってくれば、それでいいと思っています」

パパは、のんびりとした口調でいった。

「のびのびだと。瑠美奈は、どっちをむいてのびてるんだ！」

「お父さん、もう少し⑥ シヤを広げませんか。いまの時代、こうでなければいけない、ということ、考え直す時期にきてるんですよ」

「子どもを育てるのに、なにを考え直すというんだ」

「女の子だから、女の子のくせに、女の子らしく、こういう言葉で育てられた子どもは、自分の好きなこと、やりたいことを、抑えてしまうかもしれないでしょ」

おっ、と瑠美奈は運転席のパパを見た。

パパがそんなこと考えていたなんて、思いがけなかった。

「そのどこが悪い。女は女らしく育てるのが一番だろう」

「しかし、ことさら女らしく、男らしくを要求するのは、その子の生きる幅を、狭くすることになりませんか」

パパは、バックミラーでチラーとおじいちゃんを見た。

「この前、瑠美奈が、国連の高等弁務官になりたい、とかいってましたが」

えっ。ドキンとした。

「瑠美奈が、本気でめざそうと思うのなら、ぼくとしては応援おうえんしてやりたいと思います。少なくとも、頭こなしに否定したりはしたくない」

「瑠美奈にできると思ってるのか？」

「子どもの可能性は⑦ミチスウです。ぼくらの判断で、それをつぶすのはよくないと思う」

瑠美奈はちよつとあわてた。

——あの、まだそこまでは、考えてないんだけど。

⑧冷や汗あせが出てきた。でも、瑠美奈が話したことを、パパはちゃんときいてくれたんだと、うれしかった。

「おまえのいうことには、ついていけない！」

おじいちゃんは、口をへの字に結んで腕うでを組むと、慥然ぶぜんとした表情を浮かべた。

「時代は変わったのよ、あなた。古くさいことばかりいっていると、取り残されるわよ。いいじゃないの。ロングヘアだろうと、坊主だろうと、穴のあいたズボンだろうと、瑠美奈がこうしたいと思って選んだのなら」

「わっ、おばあちゃん、ものわかりいい！」

「わたしだってね、したいことなら山ほどあったわよ。でも、ことごとく否定されて、くやしい思いをいっぱいしたの。」

瑠美奈がしたいことがあるのなら、どんどんやったほうがいいと思うわ」

「おい、おまえ、なんてこというんだ」

おじいちゃんは、あわてておばあちゃんをさえぎろうとした。

「いいえ、せつかくだからいわせてもらうわ。いつだったか、わたしがカメラの同好会に入りたいっていったとき、女がそんなものをいじってどうするんだ。役にもたたんことをするなっていったわね。それから、マラソン大会に出たいっていったときも、女がみつともないマネをするんじゃないって、止めたでしょ」

「おいおい、いったいいつの話をしてるんだ」

「いくらでもあるわよ。とっても気に入ったパンツスーツを買ったときも、そうだったわ。もっと女らしい服に、替えてこいっていったのよ」

「それは、おまえに似合わないと思ったからだ」

「そんなのいいわけよ。あなたは、わたしのしたいことを、ことごとく否定してきたのよ」

長年のうらみを吐き出すように、おばあちゃんの毒舌は止まらない。

なんだか、話がちがう方向へいってしまいそうだと、心配になったころ家に着いた。

家ではママとたけるが、バスデーケーキの飾りつけをしているところだった。

⑩ダンジョウビのケーキは、自分で作りたいという、たけるのリクエストだった。

スポンジケーキのまわりに、たつぷりの生クリームを塗り、いちごやキウイやブルーベリーを、載せたりはりつけたりしている。

今日はいつものスペシャルケーキのようだ。

「まあ、ステキ！ かわいいケーキができたわね」

おばあちゃんが手をたたいた。

「まだまだよ。この上にアラザンをふりかけるんだよ」

「あら、それ、なあに？」

「ケーキにトッピングする、つぶつぶのこと。銀色に光って、すごくきれいな」

たけるは得意そうに説明する。

「まあ、そうなの」

おばあちゃんが感心する横で、おじいちゃんは、不機嫌そうに口をひん曲げた。

「女がするようなことをして」

「あら、いいじゃありませんか。ケーキ職人の多くは男性ですよ」

「うん。ぼく、パティシエになるんだ」

声はずませせて、たけるはいった。

「なんだ、それは」

「ケーキを作る人だよ」

おじいちゃんの顔が、ますます⑩ケワしくなるのを見ながら、瑠美奈は笑いをこらえるのに苦労した。

ママが作ってくれたお料理を食べ、ハッピーバースデーを歌って、たけるがケーキを切り分けた。

みんなにおいしいといわれて、パティシエをめざすたけるは、すっかり自信をつけたようだ。パパとママから、お菓子作りの道具セットをプレゼントにもらい、瑠美奈からは、パティシエがつけるようなエプロンをもらって、すっかりご満悦だった。

⑪ だけど、おじいちゃんのご機嫌は、悪くなる一方だった。

「おまえたちまでが、そんなものを買<sup>あ</sup>い与<sup>あ</sup>えるから、たけるがその気になってしまうんだ」

「パティシエが気にいら<sup>ん</sup>んですか」

。パパがきくと、

「いままで、うちの⑬カケイには男の料理人も、菓子職人もおらん。これからもだ！」

声を荒<sup>あ</sup>らげ<sup>て</sup>、苦々しげにおじいちゃんはいった。ビクツとしたように、たけるの肩<sup>かた</sup>がゆれた。

「おじいちゃん、お菓子作る人、嫌<sup>きら</sup>いな<sup>の</sup>？」

たけるは心配そうに、おじいちゃんをうかがっている。

「料理も菓子も、女が作るものだ。男ならもつと大志<sup>だ</sup>を持って！」

まん丸に見開かれたたけるの目に、みるみる涙<sup>なみだ</sup>がもりあがった。

「おじいちゃん、ぼくがケーキを作るのが、いやなの？」

涙でくぐもった声で、たけるはおじいちゃんにたずねた。

たけるの涙を見て、さすがのおじいちゃんも、ウツと言葉に詰まった。

「女の人だけが、ケーキを作ってもいいの？」

ずるずると鼻水をたらしながら、それでもたけるは、おじいちゃんに食い下がった。

「それは……」

「いいえ、たけるは、自分がしたいことをしているのよ。だれも、それを止めたりできません」

おばあちゃんだった。

「男らしく、なんて言葉は、<sup>⑬</sup>化石みたいなものよ。自分を抑える必要なんか、全くありません。瑠美奈もそうよ。やりたいと思うことがあるなら、男とか女とか考えずに、まっすぐ突き進みなさいな」

威勢のいい、おばあちゃん節がさく裂した。

「お、おまえ……」

「ええ、いくらでもいますよ。そのガチガチの石頭が、木っ端みじんになるまでね」

瑠美奈がクスリと笑っても、たけるは表情を崩さず、うるんだ目で、ひたとおじいちゃんを見つめている。

おじいちゃんが、自分にかけてくれるはずの言葉を待っている。

根負けしたように、ふうとおじいちゃんは肩を落として息を吐いた。

15

弱々しい声でいった。

ニヤリと、おばあちゃんが笑った。パパとママも顔をほころばせた。

たけるはコクンとうなずいて、しきりに目をこすっている。

おじいちゃんは、好きなものを買いなさいと、たけるにお金の入った封筒をわたした。

すぐに横から、わたしが預かります、とママの手がのびた。

「欲しいものがあつたら、ママにいいなさい」

「ぼく……」

たけるは、チラリとおじいちゃんを見た。

「お菓子を焼くオーブンが欲しい」

ガックリと、おじいちゃんが首をたれた。

少しだけ、おじいちゃんが気の毒になった。

今回の件で、<sup>⑩</sup>おじいちゃんが、ほんの少しでも変わるきっかけになればいいなど、瑠美奈は心から願った。

(『わたしの気になるあの子』朝比奈蓉子<sup>あさひななよこ</sup>)

問一  部①・⑨に当てはまる言葉を次のア～カのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア だから    イ ちなみに    ウ それなら    エ けれど    オ また    カ むしろ

問二  部②に当てはまる漢字一字を書きなさい。

問三  部③「おじいちゃんは、すっかり興奮している」とありますが、なぜ「おじいちゃん」は「興奮している」のですか。

文中の言葉を使って、その理由を三十五字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問四  部④「苦虫をかみつぶしたような顔」とありますが、これはどのような表情のことですか。最も適当なものを次のア～

オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひどくあきれたような表情    イ ひどくおどろいたような表情    ウ ひどく悲しそうな表情

エ ひどくふゆかいそうな表情    オ ひどく見くだしたような表情

問五 — 部⑤「おまえはいつたい、子どもにどんな教育をしてるんだ！」とありますが、子どもの育て方について、「おじいちゃん」と「パパ」は、それぞれのどのような考えを持っていますか。文中から解答らんに合うように「おじいちゃん」の考えは十文字以内、「パパ」の考えは二十文字以内でぬき出しなさい。(句読点は字数に入れます。)

問六 — 部⑥・⑦・⑩・⑪・⑬のカタカナを漢字に直しなさい。

問七 — 部⑧「冷や汗が出てきた」とありますが、このときの溜美奈の気持ちを六十字以内で書きなさい。  
(句読点は字数に入れます。)

問八 — 部⑫「だけど、おじいちゃんのご機嫌は、悪くなる一方だった」とありますが、それはなぜですか。その理由を六十字程度で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問九 \*部の「たける」の心情の変化を表すものとして、最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 喜び ↓ 得意 ↓ 興奮 ↓ おどろき ↓ 悲しみ ↓ 恐怖きょうふ
- イ 喜び ↓ 興奮 ↓ 満足 ↓ 恐怖 ↓ 不安 ↓ 悲しみ
- ウ 喜び ↓ 得意 ↓ 満足 ↓ おどろき ↓ 不安 ↓ 悲しみ
- エ 喜び ↓ 興奮 ↓ 満足 ↓ 悲しみ ↓ 不安 ↓ おどろき
- オ 喜び ↓ 得意 ↓ 興奮 ↓ 悲しみ ↓ とまどい ↓ おどろき

問十 — 部⑭「化石みたいなもの」とありますが、どのような意味ですか。わかりやすく言いかえなさい。

問十一 部⑮に当てはまるおじいちゃんの言葉を、考えて書きなさい。

問十二 — 部⑯「おじいちゃんが、ほんの少しでも変わるきっかけになればいいな」とありますが、溜美奈は「おじいちゃん」にどのように変わってほしいと思っているのですか。六十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)